

## 大分市

戦国時代の大名・大友宗麟が活躍した16世紀半ばに、貿易都市として繁栄した歴史を持ち、現在に至るまで、政治や経済、文化の中心的な役割を担っている都市。大分県立美術館「OPAM」、世界的な建築家による建造物など、充実した芸術体験ができるまちの一面があります。

### 1. カルチャーイベント

#### 展覧会『時化（シケ）の雲からコンニチハ』

アーティスト：Yotta

現代アートユニット・Yottaの作品シリーズが市内に点在。会期中、市内に滞在し新作を構想。最終日にプランをお披露目します。

大分市内各所に設置されたYottaの作品が、訪れる人の心を踊らせます。まずJR大分駅北口広場で出迎えるのは《花子》。大きき約12mの巨大な作品が、これからの旅の始まりを告げます。その他に、《金時》《穀》《くじらのカーニバル》《青空カラオケ》といった過去作品が、徐々に中心市街地各所に登場します。※全ての作品が出揃うのは4月末を想定。会期中、Yottaは府内五番街やNTT 府内ビル別館（NTT アートシアター）に設けたアトリエに滞在して新作を構想。最終日にお披露目します。

会期 4月6日（土）～6月30日（日） 10:30～18:00 休：火・水（屋外作品は鑑賞可能）  
 会場 大分市中心市街地各所(会場情報は公式SNSにてご案内します <https://www.instagram.com/oitacexpo24/>)  
 料金 無料  
 最寄駅 JR大分駅（日豊本線、久大本線、豊肥本線）  
 作家 Yotta（ヨタ）  
 協力 NTT西日本大分支店、鬼塚電気工事株式会社

### Yotta（ヨタ）



木崎公隆・山脇弘道からなる現代アートのユニット。2010年結成。ジャンルや枠組み、ルールや不文律など、あらゆる価値観の境界線上を発表の場としており、それらを融解させるような作品制作を行っている。現在は、自分達のアイデンティティから世界のカタチを捉え直す作品シリーズを制作中。2015年に《金時》で『第18回岡本太郎現代芸術賞 岡本太郎賞受賞』ほか、『六本木アートナイト』（2010,2012）、『おおさかカンヴァス』（2011,2012,2016）、『Reborn-Art Festival 2017』、『瀬戸内国際芸術祭2019』など参加多数。その他『のせでんアートライン2017』のプロデュース、小学校でのワークショッププログラムの実施など、幅広く活動。



《花子》京都市・京都府、2022年

©ARTISTS' FAIR KYOTO Photo by Kenryou Gu



《ワンダーえびす丸》香川県、2019年



《穀》2016年

### アーティストステートメント

Yottaは、鬼という存在に着目しながら作品制作を続けてきました。人々にとって鬼とはどのような存在を表現したものでしょうか。そこに多義性は認められるものの、共通の特徴として、人々の理解の外、計り知れない対象を指しました。技術を持った異邦人、異形、病や災い、自然現象など(天候を司る風神や雷神も鬼形で表現されます)。それは必ずしも悪魔的存在だけを指しません。

時化（シケ）は、荒天により海が荒れることを意味します。時化ると不漁になる事から意味が派生して、シケた面、シケた話など“うまく行っていない事”も指すようになりました。時化はいつも理不尽にやってきて、私たちは惑いながらも抗い乗り越えようとしています。必要なのは技術的発想なのか、精神的強さなのか、呪術的情念なのでしょう。私たちは遠ざかっていく時間切れの日常を追いかけながら、常に非日常的選択を迫られます。

社会が時化する時、暗雲の雲間から覗く鬼は、吉なのでしょう。凶なのでしょう。

## 大分市

### 2. カルチャーツアー

#### 『Yottaのアトリエと展示会場を巡るまち歩きツアー』(散策ツアー)

開催日 4月29日(月祝)、5月4日(土)、5月6日(月祝)、5月10日(金)

全て13:30~16:00 各回定員15名

料金 1,500円(立ち寄りポイントの飲料費・Yotta特製焼き芋含む)

※中心街以外のエリアへ作品鑑賞に向かうための乗車料金は含みません

販売先 Peatix <https://oita-cultural-expo.peatix.com/>

内容 大分市中心街に点在するYottaの作品を巡る散策ツアーです。作品の展示会場や彼らが作品制作を行うアトリエを訪問するほか、中心街のその他の見所も紹介します。さらに、《金時》によって製造された焼き芋も配布します。また、ツアー参加者のみが鑑賞できる彼らの作品を特別にご案内!?

行程 JR大分駅集合 >>> 《花子》鑑賞 >>> 中央町商店街・ガレリア竹町ドーム広場 >>> アトリエ訪問 >>>

>>> NTT府内ビル別館 >>> 別のエリアの作品を鑑賞

(別のエリアへの移動費は各自負担。中心街は全て徒歩移動。合計2時間半程度を想定)

## 別府市

言わずと知れた温泉のまち・別府は2024年で市政100周年を迎えます。源泉数、湧出量ともに日本一を誇り、国際観光温泉文化都市として発展。一方で、『ALTERNATIVE-STATE』などのアートプロジェクトも盛んに開催しており、新たなまちの魅力を創出し続けています。

### 1. カルチャーイベント

#### 『Tanker Project』 / 『元気炉トリップ』 アーティスト：栗林 隆

世界で最も影響力のあると言われる国際展『ドクメンタ』(カッセル、ドイツ)に、2022年に日本人として唯一招聘された栗林 隆による二つのプロジェクト『Tanker Project』『元気炉トリップ』を別府市内各所で展開します。また、4月6日(土)には、栗林 隆 x 片岡真実のトークイベント、志津野 雷(CINEMA CARAVAN)+Play with the Earth Orchestraによるライブイベントも開催されます。

最寄駅 JR別府駅(日豊本線)

作家 栗林 隆 / Takashi Kuribayashi

#### 『Tanker Project』

360度見渡す限り何も無い大海原に、何十という大きなタンカーが座礁し捨てられていた。そんな現実とは思えない不思議な風景の中で「タンカーたちは、嵐や台風の影響でその場所を離れ、世界中の海を彷徨っている。渡り鳥は休むためにとまり、彼らが連れてきた生き物や植物が根を下ろし、やがて船全てを覆うほどの森となる。世界中の植物や生き物達はそのタンカーの上で育ち続け、一つの大きな生態系を作りタンカーの世界を作り上げる」という栗林の妄想から始まったプロジェクト。

タンカーの中央では、栗林 隆と片岡真実(森美術館 館長)のトークイベントや、CINEMA CARAVAN代表・志津野 雷が世界を旅して切り取った記録を紡いだ映像作品《Play with the Earth》の上映と Play with the Earth Orchestra による生演奏が行われます(CINEMA CARAVANによるプログラム)。

※CINEMA CARAVAN によるライブイベントは『別府市制100周年記念式典 前夜祭イベント』(主催:別府市制100周年記念事業実行委員会)として開催されます

会期 4月6日(土)・7日(日)

会場 北浜公園(〒874-0920 大分県別府市北浜1丁目)

料金 無料

連携 CINEMA CARAVAN

#### トークイベント『今、アートに何ができるのか?』

出演 栗林 隆 x 片岡真実(森美術館 館長)

日時 4月6日(土) 17:00~18:00

会場 北浜公園(〒874-0920 大分県別府市北浜1丁目)

雨天会場:別府ブルーバード劇場 3階フレックスホール  
(〒874-0920 大分県別府市北浜1丁目-12)



2019年『Tanker Project』(『FaN Week 2023』福岡市)  
photo Rai Shizuno

#### ライブイベント『Play with the Earth』

出演 志津野 雷(CINEMA CARAVAN)+Play with the Earth Orchestra

日時 4月6日(土) 19:30~21:00

会場 北浜公園(〒874-0920 大分県別府市北浜1丁目)

雨天会場:別府ブルーバード劇場 3階フレックスホール  
(〒874-0920 大分県別府市北浜1丁目-12)

主催 別府市制100周年記念事業実行委員会



《Play with the Earth》(『ドクメンタ15』カッセル・ドイツ)  
photo Rai Shizuno



## 『元気炉トリップ』

「人々を元気に」をスローガンに、大きな窯で薬草を入れて湯を沸かし、その蒸気をパイプで特定の空間に送り込む体験型インスタレーション《元気炉》。それはまるで全身で味わう薬草茶体験。この《元気炉》が市内各所を移動するプロジェクト『元気炉トリップ』を展開します。

会期 4月6日(土)～6月30日(日) 休：火・水・木・4月8日(月)

会場 別府市内各所(会場情報は、『元気炉トリップ』公式SNSを通じてご案内します。)

料金 500円 ＊特製タオル付き

制作 特定非営利活動法人BEPPU PROJECT

協力 別府速見森林組合、別府市 観光・産業部 農林水産課、株式会社東山パレット、山のカケラ、  
 俣美建装 代表 林田 勝 (2024年2月29日時点)

※4月6日(土)、7日(日)は、『Tanker Project』にあわせ、北浜公園で16:00～21:00の間《元気炉》を稼働します。詳細はSNSよりご確認ください。 <https://www.instagram.com/genkirotrip>

## 栗林 隆 プロフィール



1968年、長崎県出身。東西統合から間もない1993年よりドイツに滞在した頃より「境界」をテーマにドローイング、インスタレーション、映像など多様なメディアを使いながら作品を発表。現在は日本とインドネシアを往復しながら国際的に活動し、さまざまな展覧会に招聘されている。

ドイツ、カッセルで開催された2022『ドクメンタ15』(Cinema Caravan and Takashi Kuribayashiとして)では《蚊帳の外》を拠点に会期中にさまざまなイベントを行った。その際に発表した《元気炉四号機》が評価され、『芸術選奨 文部科学大臣賞』を受賞している。



《伊吹の樹》伊吹島・香川県、2019年



《mountain range》千代田区・東京都、2022年



《out of the mosquito net》  
カッセル・ドイツ、2022年

## 別府市

## 栗林 隆 アーティストステートメント

自分の作品に、  
ヤタイトリップ、元気炉、そしてタンカープロジェクトの  
三つの旅するプロジェクトがある。

これらは、大、中、小、  
それぞれの規模、サイズ、そして意味を持った  
生涯をかけて行うプロジェクトである。

人生は、旅の様なものである、  
そう多くの作家達が語ってきた。

間違いなく、人生は旅である。  
そしてその旅は多くの可能性と冒険に満ちている。  
これら三つのプロジェクトは、  
現実世界に非現実の空間世界を作り出し、  
現実だと思っているこの世界が、いかに楽しく、素敵で、  
そして滑稽であり、虚像であるのかということを体験させてくれる。

世の中のほとんどの問題は、エネルギー問題であり、  
それらは目に見えず、妄想に委ねられる。  
国境、宗教、パンデミックや放射線、  
全ては目に見えないものであり、我々が頭の中で作り出したものである。  
自然や生き物達にはどうでも良い、気にもしないことなのだ。

元気炉の空間や体験、そして人との繋がり、  
忘れていたことを思い出し細胞から蘇る。  
大きなタンカーはエネルギーを運ぶ象徴である。  
負のエネルギーからポジティブなエネルギーへ、  
これらのプロジェクトは、  
強制的に身体を健全にし、正しい意識とエネルギーに導く。

ヤタイトリップ、元気炉トリップ  
そしてタンカーの旅が始まります。

## 2. カルチャーツアー

- ① 『“別府の一休”こと花田潤也とまわるまち歩きツアー』
- ② 『別府在住アーティスト勝 正光とまわるまち歩きツアー』

開催日 ① 4月19日（金）、5月11日（土）、5月20日（月） 15:00～18:00 各回定員15名  
② 4月26日（金）、5月17日（金）、6月7日（金） 15:30～20:30 各回定員15名

料金 ① 2,500円(《元気炉》体験料金含む)  
② 6,000円(夕食代含む/ドリンクは別料金、温泉利用料金含む)

販売先 Peatix <https://oita-cultural-expo.peatix.com/>

内容 現代アートのまちづくりが進みあちこちにアートスポットが点在する別府。この街を知りつくした別府  
在住アーティスト勝 正光や、別府八湯温泉道名人会会長、“別府の一休”こと花田潤也とまわる散策ツアー  
です。栗林 隆の作品《元気炉》体験や、市内在住アーティストとの食事会などの特別な交流も。  
※予約不可の《元気炉》はツアー参加者のみ特別に予約が認められています

行程 ① 『“別府の一休”こと花田潤也とまわるまち歩きツアー』  
JR別府駅集合 >>> 市内アートスポット巡り >>> アトリエ訪問 >>> 《元気炉》体験  
(基本徒歩移動。合計3時間程度。《元気炉》までご案内しツアーは終了します)

② 『別府在住アーティスト勝 正光とまわるまち歩きツアー』  
JR別府駅集合 >>> 市内アートスポット巡り >>> アトリエ訪問 >>> ジモ泉体験(案内人である  
アーティストが管理する共同浴場) >>> アーティストを交え食事 (全て徒歩移動。合計5時間程度)

## 佐伯市

豊後佐伯城下のまち並みや造船のまちならではの進水式、戦時中の軍事都市として発展したその遺構などの歴史や文化。豊後二見ヶ浦の絶景、鮮度抜群な魚介類やジビエといった海山の幸などの自然を活かした資源。多彩な観光資源を持つ都市です。

### 1. カルチャーイベント

#### 藤井 光 個展 『終戦の日 / War Is Over』

美術家・映像作家の藤井 光による新作映像作品の展覧会です。1人ひとりが異なる感情で迎えた79年前の終戦の日。その日、言葉にならない感情が込みあげたであろう人々の姿を佐伯市民が演じた映像作品、《終戦の日(英題: War Is Over)》を展示します。会場となる丹賀砲台園地は、昭和17年1月11日に発生した爆発事故の傷跡を今に伝える場所。佐伯市から世界の平和を願い、本展を開催します。

会期 4月13日(土)～6月16日(日) 9:30～16:30(最終入館16:00) 休: 火・水

会場 丹賀砲台園地地下弾薬庫(〒876-1311 大分県佐伯市鶴見大字丹賀浦577)

最寄駅 JR佐伯駅(日豊本線)

料金 無料(但し施設入館料として大人200円、小中学生100円)

作家 藤井 光

制作 特定非営利活動法人BEPPU PROJECT

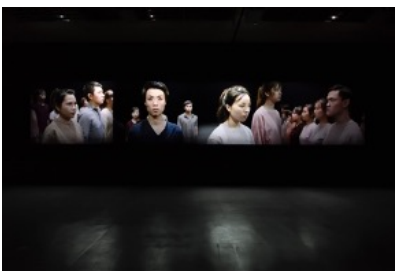
協力 佐伯市、一般社団法人佐伯市観光協会、砲台を守る会、森川寿子(多文化共生マネージャー)

#### 藤井 光 プロフィール



1976年生まれ。パリ第8大学美学・芸術第三博士課程DEA修了。芸術は社会と歴史と密接に関わりを持って生成されるという考え方のもと綿密なリサーチをおこない、同時代の社会課題に回答する映像インスタレーションを制作する。

『日産アートアワード2017』グランプリ、『Tokyo Contemporary Art Award 2020-2022』を受賞。個展『特別企画 藤井光 爆撃の記録』(原爆の凶丸木美術館、埼玉、2021)、『3.11 とアーティスト: 10年目の想像』(水戸芸術館現代美術ギャラリー、2021)ほか、国内外の展覧会に多数参加。



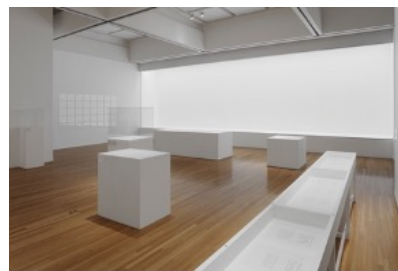
《無情》2019年

Photo: Tetsuo Ito



《日本の戦争美術1946》2022年

Photo: Keizo Kioku



《爆撃の記録》2016年

Photo: Shizune Shiigi

#### アーティストステートメント

1945年8月15日の「終戦の日」、佐伯市では多くの人が泣いたという記録が残っています。言葉では語り尽くせない感情を抱きしめ当時の人々は新しい時代を築いてきました。それから79年後の今日、無情にも容赦なき戦争は世界各地で起きています。人類の長い歴史は未だ「終戦の日」を知りません。この作品は、今なおも疼く戦争の記憶と海の向こうで継続されてきた殺戮の犠牲者を時空を超えて想像できるかを試みるものです。先の見えないこの時代に、第二次世界大戦で使用された弾薬庫の中から、人間はいつの日か「終戦の日」を創造できるのかを問い直していきます。

## 佐伯市

## 2. カルチャーツアー

『藤井 光の新作鑑賞と「海」の誕生を感じる旅』  
～“浦”とともに生きる人々が手がける特別なブイヤベースをご賞味あれ～

ツアーのテーマは「海」の誕生。リアス式の海岸が広がる鶴見地区を巡り、藤井 光の新作《終戦の日(英題：War Is Over)》の鑑賞や、浦に生きる人々との対話、海の命をいただくことなどをおして「海」と人々の関係性を見出します。塩分を含んだ「涙」が極限まで溢れ、やがて「海」を生み出したかのような、この地の新たな神話創造を想起させるアートツアーです。特製ブイヤベースをご賞味いただきます。

開催日 4月14日(日)、5月5日(日)、5月19日(日)、6月8日(土) 全て11:00～16:00 各回定員20名

料金 6,000円(昼食代含む)

販売先 UNAラボラトリーズ <https://unalabs.jp/tourism/jose01/>

内容 ツアーのテーマは「海」の誕生。リアス式の海岸が広がる鶴見地区を巡り、藤井 光の新作《終戦の日(英題：War Is Over)》の鑑賞や、浦に生きる人々との対話、海の命をいただくことなどをおして「海」と人々の関係性を見出します。塩分を含んだ「涙」が極限まで溢れ、やがて「海」を生み出したかのような、この地の新たな神話創造を想起させるアートツアーです。特製ブイヤベースをご賞味いただきます。

行程 JR佐伯駅集合 >>> 漁村女性グループめばる・食事 >>> 丹賀砲台園地・アートおよび施設鑑賞>>>  
>>> 地域住民との交流 >>> 鶴御崎自然公園 >>>さいき海の市場〇 >>> 佐伯駅解散  
(全てバス移動。合計5時間程度)



## 臼杵市

国宝臼杵石仏や大友宗麟が築城した臼杵城跡、その城下町の歴史など、往時の雰囲気を残すまち並みが楽しめます。また江戸時代から400年受け継がれる発酵文化や郷土料理、化学肥料と化学合成農薬の使用を避け栽培した「ほんまもん農産物」などが評価され、ユネスコから食文化創造都市として認定されています。

### 1. カルチャーイベント

#### 食事と朗読の公演『石が土になる間に』

「遠くの風景と、ひとさじのスープ。世界と、わたしの手のひらは、繋がっている。」をコンセプトに、風景・文化・社会と鑑賞者が、「食」を媒介にして繋がるような作品を制作してきた風景と食設計室 ホー。今回は、臼杵市深田地域のリサーチやインタビューを元に制作した、食事と朗読による公演『石が土になる間に』を4回開催します。参加者は、作品のインスタレーションの中で、アーティスト自身による朗読パフォーマンスと料理を体験いただきます。記録に残ることのない些細な日常の欠片と、私たちが包む大きな時間との間を行き来しながら、自分がある風景を見つめる。この公演がそのきっかけになることを願って――

公演日 5月18日(土)、5月19日(日)、6月8日(土)、6月9日(日)

全て 受付 12:00~12:20 / 公演 12:30~13:40 ※終了時間は目安です。

会場 旧石仏山荘(〒875-0064 大分県臼杵市大字深田835-4)

料金 3,500円 ※食文化創造都市・臼杵を体験するお得なバスツアーとのセット販売もございます。

販売先 Peatix <https://oita-cultural-expo.peatix.com>

定員 各回40名(公演のみ20名 / バスツアーとのセット20名)

最寄駅 JR臼杵駅(日豊本線)

作家 風景と食設計室 ホー / HOO. Landscape and food works

公演のインスタレーションは以下の会期に公開します。

会期 5月18日(土)~ 6月16日(日)

10:00~16:30(最終入館16:00) 休：火・水・公演日(5月18日・19日、6月8日・9日)

会場 旧石仏山荘(〒875-0064 大分県臼杵市大字深田835-4)

料金 無料

#### 風景と食設計室 ホー プロフィール



Photo by Hiroko Takeda

遠くの風景と、ひとさじのスープ。

世界と、わたしの手のひらは、繋がっている。

風景と食、それぞれの先を想像し、それぞれを繋げる。

日常的、それでいて特別な、時間と空間の経験として。

――

高岡友美と永森志希乃によるユニット。

ランドスケープデザイン事務所勤務を経て、2012年3月より活動を開始。主な作品に《醗酵する部屋》(ベップ・アート・マンス2012)、《月出る処、今と昔》(中房総国際芸術祭いちばらアート×ミックス2014)、《見えない神さま―粕川の祈りとたべもの》(『フードスケープ 私たちは食べものでできている』アーツ前橋 2016)、《明日の食卓》(東アジア文化都市2018金沢「変容する家」2018)、《消えゆく日々、そこにあるもの》(さいたま国際芸術祭2020)、《台所に立つ、灯台から見る》(黒部市美術館 個展 2020)等。



《醗酵する部屋》

『ベップ・アート・マンス』2012年

Photo by HOO. Landscape and food works



《見えない神さま―粕川の祈りとたべもの》

『フードスケープ 私たちは食べものでできている』

アーツ前橋 2016

Photo by Kigure Shinya



《消えゆく日々、そこにあるもの》

『さいたま国際芸術祭』2020

Photo by Toshifumi Tsuyama



## アーティストステートメント

深田に長く住む女性たちに話を聞いた。

ある人が「年に二度、石仏に特別な朝日が差し込む日がある」と言っていた。

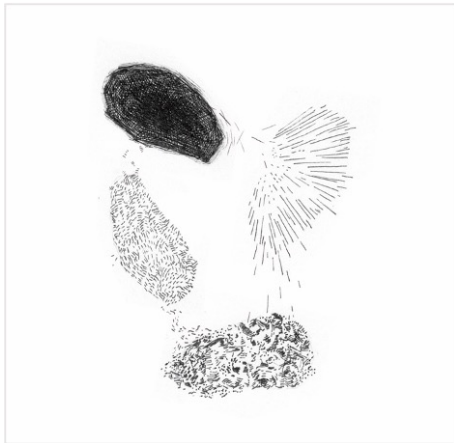
この星の土は石から生まれたという話を讀んだ。

石が長い年月をかけて砂になり、植物や生物の営みによって土が生まれるのだと。

それはどちらも、希望の話だと思った。小さくてささやかな、喜びの話だと。

自然や、人の営みの中に、そういうものを見つけたい。

こなごなになったものも、もう一度集めて形にしたい。



私たちは「遠くの風景と、ひとさじのスープ。世界とわたしの手のひらは繋がっている。」をコンセプトに、風景・文化・社会と鑑賞者が、「食」を媒介にして繋がるような作品を制作してきました。今回は、臼杵と深田地域のリサーチやインタビューを元に制作した、食事と朗読の公演・インスタレーション《石が土になる間に》を発表します。歴史に残ることのない些細な日々の欠片と、私たちを包む大きな時間との間を行き来しながら、自分がいる風景を見つめる、この作品がそのきっかけになればと願っています。

コンセプトドローイング『石が土になる間に』

## 2. カルチャーツアー

『臼杵の循環型食文化を学ぶ。“石と土”をテーマに自分がいる風景を見つめる旅』  
風景と食設計室 ホーの食事と朗読の公演『石が土になる間に』

開催日 5月18日(土)、5月19日(日)、6月8日(土)、6月9日(日) 全て11:00~15:00 各回定員20名

料金 6,000円(食事と朗読の公演『石が土になる間に』参加費含む)

販売先 ツアー参加 UNAラボラトリーズ <https://unalabs.jp/tourism/jous01/>

内容 400年以上の歴史を誇る味噌や醤油、酒造りなどの醸造業や質素儉約の中で知恵を絞って生まれた郷土料理など、多様な食文化が醸成された臼杵市。その取り組みが評価され、2021年には日本で2例目となるユネスコ「食文化創造都市」に認定されました。このツアーでは、「石と土」をテーマに、土づくりから始まるほんまもん農産物の生産地への訪問からスタート。その後、風景と食設計室 ホーによる、地元の方へのインタビューや文献でのリサーチをもとにした食事と朗読の公演『石が土になる間に』を体験いただきます。

行程 JR臼杵駅集合 >>> 臼杵市土づくりセンター >>> ほんまもん農産物生産農家訪問・収穫体験 >>>  
>>> 風景と食設計室 ホーの展示鑑賞・食イベントに参加 >>> 国宝・臼杵石仏鑑賞  
(全てバス移動。合計4時間程度)

## 竹田市

くじゅう連山やユネスコエコパークに選定された祖母山など雄大な自然に抱かれた竹田市。世界有数の炭酸泉と称される長湯温泉、日本名水百選に選ばれる竹田湧水群なども。近年では、その豊かさを求めて、彫刻や革細工など、さまざまなジャンルの作り手に移り住んできており、文化的なまちとしての一面が加わっています。

### 1. カルチャーイベント【既存事業の紹介】

内容 竹田市に住むアーティストや工芸家など多様なクリエイターの拠点を巡っていただくために、シェアハウス「暮らす実験室」(2017年に移住)による散策マップを配布します

最寄駅 JR豊後竹田駅(豊肥本線)

### 2. カルチャーツアー (食イベント+自由散策)

『ぐるずぶTABLE at 暮らす実験室 自然と土地の営みにつながる、おいしいマルシェ』

開催日 5月12日(日)、5月26日(日)、6月1日(土)、6月2日(日) 合計4回 全て11:30~13:30 各回定員20名

料金 2,500円(食イベント参加費含む)

販売先 Peatix <https://oita-cultural-expo.peatix.com/>

企画 暮らす実験室 / KURASU living laboratory

内容 住む・泊まる・集う・働きあそぶを共有し、自分らしい暮らし方を実験している多機能シェアハウス「暮らす実験室」。『Oita Cultural Expo! '24』では、「ぐるぐる循環する暮らしと、ずぶずぶの関係」をテーマに彼らが開催している『ぐるずぶ市』の特別企画として、カルチャーツアー参加者を対象に、地域食材を用いたランチと生産者のトークによるイベントを体験していただきます。

また、暮らす実験室による散策マップをもとに、日本百名城にも選ばれた岡城跡の城下町を歩きながら竹田の作り手たちのしごとをじっくり味わいます。

行程 暮らす実験室IKI・食イベントに参加 >>> 散策・自由解散(全て徒歩移動。食イベントは90分程度)



暮らす実験室IKIでの『ぐるずぶ市』(2023年10月22日の様子)

### 企画者プロフィール | 暮らす実験室 / KURASU living laboratory



大分県竹田市の城下町にある「暮らし方の実験を」をテーマにしたシェアハウス、ゲストルーム、イベントスペースからなる多機能空間。オーナーである市原家は2017年に東京から移住し、子どもを含む家族5人と単身者11人でのシェア生活を営んでいます。セルフビルドでの空間作り、自然栽培での稲作、ワークシェアなど、自分たちにとっての心地いい暮らしを試みる過程を楽しんでいます。移住を考えている方向けにショートステイ用の一室も備えており、お試し移住の場ともなっています。毎月1回第3日曜日には「ぐるずぶ市」という農家と料理人がコラボするマルシェも開催。ちょっと変わった名前の由来は「ぐるぐる循環」と「ずぶずぶつながり」。どんな暮らしをしたいか考えた時に浮かんだのは自然と街と人が、つながりあう様。いつもより人と自然にやさしい選択がしたくなり心のどこかが触れるような感覚を味わう…そんな1日を提案しています。

## 国東半島（豊後高田市、国東市）

神仏習合の発祥の地と言われる国東半島（豊後高田市、国東市）。六郷満山峰入行のコースをベースに、楽しく、心地よく歩けるトレイルとして再構成した「国東半島峯道ロングトレイル」でトレッキングやウォーキングの醍醐味を味わうことが可能です。また、クヌギ林とため池による循環型農林業が評価され世界農業遺産に認定されています。さらに近年は、国際的な芸術家によるアートが集積し、半島の新たな道標となっています。

### 1. カルチャーイベント【既存事業の紹介】

内容 国東半島には国際的に活躍するアーティストが手がけた作品が点在しています。そのいずれもが設置する場所のためだけに作られたもの。

国東半島での現代アート制作に携わってきた特定非営利活動法 BEPPU PROJECTによる特製アートマップ片手に、アートを道標に春の国東半島を巡ってみては。

最寄駅 JR宇佐駅(日豊本線) 宇佐駅から車で約1時間

### <恒久設置作> 12作家・16作品

#### 豊後高田市

《念願の木》《見えないベンチ》オノ・ヨーコ、

《色色色》チェ・ジョンファ

《国東半島のラクダ》淀川テクニク、《太陽と坐る》木村崇仁、《One Wild Day》鴻池朋子

(以上、長崎鼻。他にanno labによる「不均質な自然と人の美術館」なども岬内に点在)

《月の木・光の水滴》勅使川原 三郎 (並石ダム)

《花と人、コントロールできないけれども、共に生きる Kunisaki Peninsula》

チームラボ (「チームラボギャラリー真玉海岸」)

#### 国東市

《ANOTHER TIME XX》アントニー・ゴームリー (千燈地区)

《説教壇》川俣 正 (岐部地区)

《Hundred Life Houses》宮島達男 (成仏地区)

《光る道》《首飾り》(旭日地区) 《息吹》(来浦地区) 《マノセ》(馬ノ瀬地区) 島袋道浩

《Kunisaki House》レイチェル・ホワイトリード(鶴川地区)

### 2. カルチャーツアー(1泊2日バスツアー)

#### 『アートディレクター山出淳也と巡る国東半島 アートと地域食材に出会う旅』

#### ～国東半島在住シェフ川崎遼平によるスペシャルなディナー～

点在するアートを巡り、地域食材と出会い、国東半島在住シェフ川崎遼平によるスペシャルなディナーへと繋がる1泊2日のツアーです。国東半島の現代アート作品をキュレーションしてきた山出淳也(Yamaide Art Office 株式会社 代表取締役)がご案内します。

開催日 4月20日(土)～21日(日)、4月27日(土)～28日(日) 全て9:00～翌15:45(別府駅、または大分空港発着)  
各回定員20名

料金 23,500円(昼食2回・夕食1回・朝食1回、宿泊費含む)

販売先 UNAラボラトリーズ <https://unalabs.jp/tourism/jokn14/>

行程 [1日目] 別府駅発/大分空港発 >>> アート作品鑑賞 >>> 昼食 >>> アート作品鑑賞 >>>  
>>> 国見地区で地元の方と交流>>> 真玉海岸で夕陽>>> 花とアートの岬・長崎鼻に到着 >>>  
>>>川崎遼平による大分の食材を使ったスペシャルなディナー

[2日目] 朝食 >>> 「不均質な自然と人の美術館」鑑賞>>> 出発 >>>椎茸農家訪問 >>>  
>>> アート作品鑑賞、拠点施設体験 >>> 昼食>>> お土産購入 >>> 大分空港着/別府駅着



## シェフ川崎遼平 プロフィール



東京のフランス料理店数店で約7年間経験を積み渡仏。

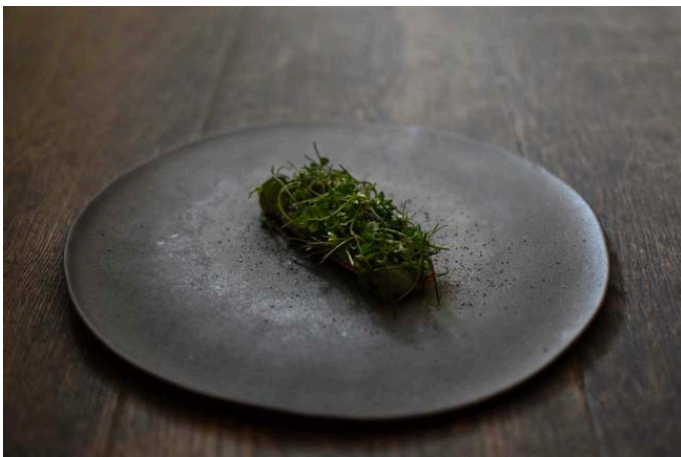
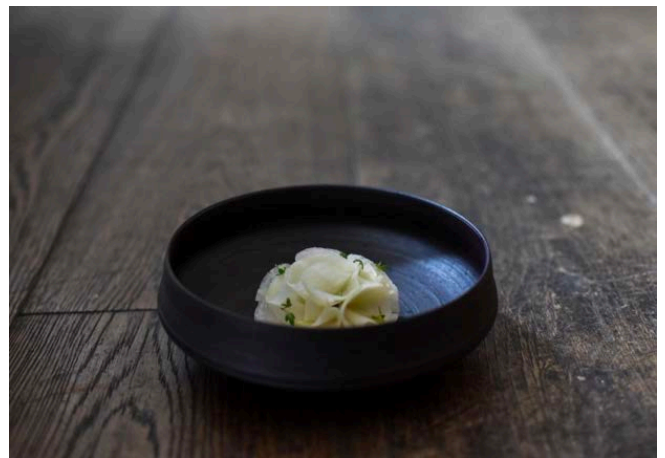
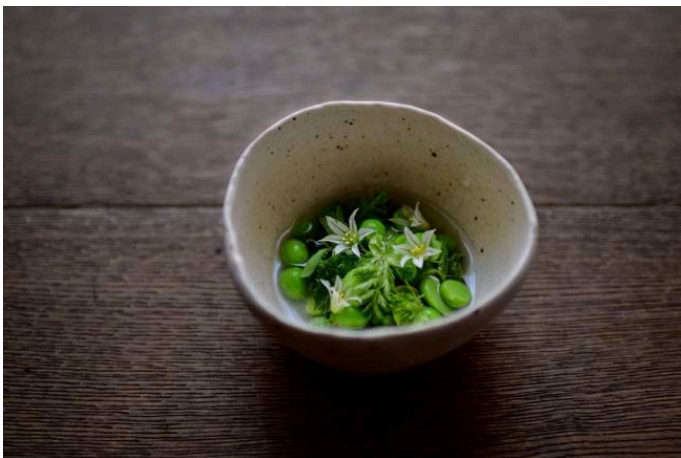
フランスのアルザス地方やパリ、デンマークのコペンハーゲンのレストランでの経験を積み2016年料理人である父と共にパリにレストランをオープン。

2017年から料理長となり、2018年フランスミシュラン一つ星を獲得。

2018年からはレストランを完全に引き継ぎオーナーシェフとなり、パリのお店を閉める2022年まで5年連続でミシュラン一つ星の評価を得た。

パリでの経験からゆくゆくは日本の豊かな自然の中でお客様を招き、自身の作る料理を味わって頂きたいという思いが募り、パリのレストランを閉め日本への帰国を決断。

帰国後、様々なご縁をいただき、現在大分県国東市で小さなオーベルジュのオープンに向けて準備中。





## 国東半島

国東半島に恒久設置された作品(山出淳也がキュレーションした作品のみを抜粋)



《見えないベンチ》オノ・ヨーコ



《色色色》チェ・ジョンファ



《花と人、コントロールできないけれども、共に生きる Kunisaki Peninsula》チームラボ



《ANOTHER TIME XX》アントニー・ゴームリー



《光る道》島袋道浩



《説教壇》川俣 正



《Kunisaki House》レイチェル・ホワイトリード



《Hundred Life Houses》宮島達男



《月の木》勅使川原 三郎



《太陽と坐る》木村崇仁



《国東半島のラクダ》淀川テクニク



《One Wild Day》鴻池朋子

## 【公式Webサイト内での特集】

## 特集 ”Special Curators!”

地形的特徴はもとより、江戸時代の小藩分立(8藩7領)によって、文化的な多様性が図らずも残った大分県。そんな地域の個性や独立精神を活かそうと、昭和時代に始まった『一村一品運動※』では、椎茸や焼酎、カボス、関あじ・関さばをはじめ、地域の顔と言える多くの産品、そして観光資源が生まれました。この運動を牽引してきたリーダーたちの背中を見て育った次の世代が、県内各地の文化を今・まさに耕しています。それぞれの地域を知り尽くす彼らがキュレーションするオススメ・スポットを巡りながら、その土地の旬の文化を味わってみませんか。

- 大分市 | 大分市の文化的な“辻”「カモシカ書店」の岩尾晋作さんに、大分市のおすすめスポットを紹介していただきました。
- 別府市 | 別府・大分県のアート×地域を牽引してきた特定非営利活動法人BEPPU PROJECT代表の中村恭子さんに、誰もが楽しめる別府の歩き方を紹介していただきました。
- 中津市 | 丁寧なものづくりで森を想う暮らしを提案する「六月八日」に、耶馬溪や中津市街地のおすすめスポットを紹介していただきました。
- 日田市 | 日田市で唯一の映画館「日田シネマテーク・リベルテ」を営む原 茂樹さんに、“山や川”の魅力を中心に、日田市のおすすめを紹介していただきました。
- 佐伯市 | 佐伯の食ならこの人！といっても過言ではない、さいきあまべ食べる商會代表の平川 摂さんに、佐伯市のおいしいお店を紹介していただきました。
- 臼杵市 | 『usuki farmer's marketひやくすた』の事務局や臼杵市の食に関連する事業にも関わる多々良 麻子さんに、閑静な住宅街の中に歴史ある風景が混在する海添地区を紹介していただきました。
- 竹田市 | 自分らしい暮らし方を実験する多機能シェアハウスを運営する「暮らす実験室」に、竹田市のおすすめスポットを紹介していただきました。
- 豊後大野市 | サステナブルな指定管理施設を目指す「ロッジきよかわ」を経営する江副雄貴さんに、サウナ事情や楽しみ方、おすすめスポットを紹介していただきました。
- 国東半島 | 国東半島のアートにも深く関わってきた写真家・谷 知英さんに、愛情たっぷりと国東半島を紹介していただきました。

## あわせて体験したい・立ち寄りたい！

- 名 称** | 特急『かんぱち・いちろく』 <https://www.jrkyushu-kanpachiichiroku.jp>
- 内 容** | 『福岡・大分DC』の開催に合わせて、新しい”D&S列車”『かんぱち・いちろく』がデビュー！車両内に設置されている大分・福岡のアーティスト10名・24作品が道中に彩りをもたらします。キュレーションはYamaide Art Officeが行いました。ぜひご体験ください。
- ルート** | 11日片道1便運行(片道約5時間)、木運休。お食事付き  
博多⇒由布院・大分・別府 月・水・土 / 別府・大分・由布院⇒久留米・博多 火・金・日
- 料 金** | 大人1名あたり 18,000円～23,000円

- 名 称** | 大分のサステナブル・ガストロノミー
- 内 容** | 複雑な地質と地形、そして表情豊かな海岸線を持つ大分県。その風土が育んだ豊富な食材に人々の創意工夫が加わって、食にまつわる多彩な文化が生まれました。地域固有の物語をひもとくようにお料理を味わい、大分県の食文化をめぐる美食の旅に出ませんか？ガイドブック『文化を味わう美食旅』のダウンロードはこちらから  
[https://www.beppuproject.com/sg/wp-content/uploads/2023/05/冊子\\_最終.pdf](https://www.beppuproject.com/sg/wp-content/uploads/2023/05/冊子_最終.pdf)

- 名 称** | Yamaide Art Officeがオススメする大分県土産
- 内 容** | 主原料が大分県産のものを集めた「Oita Made Shop」は、大分市を訪れたら立ち寄るべき場所。中心部にあるのでYotta作品の鑑賞と合わせて足を運んでみては。  
また、『福岡・大分DC』に合わせ、サステナブルな意識を持つ県内事業者10社による意欲的な商品が生まれました。こちらもおススメします！
- <Oita Made> <https://oitamade.jp>  
平日10:00～18:00／日曜日祝日 10:00～17:00 休み＝水休み  
〒870-0021 大分市府内町2-2-1 赤レンガ館 TEL 097-513-2828
- <gifts from oita> <https://giftsfromoita.stores.jp/>  
特設販売 JR大分駅・大分空港などでの特設コーナーで全商品をご購入できます。  
※『gifts from oita』は、令和5年度県産品魅力再構築推進事業によってリブランディングが行われた商品群の名称です。